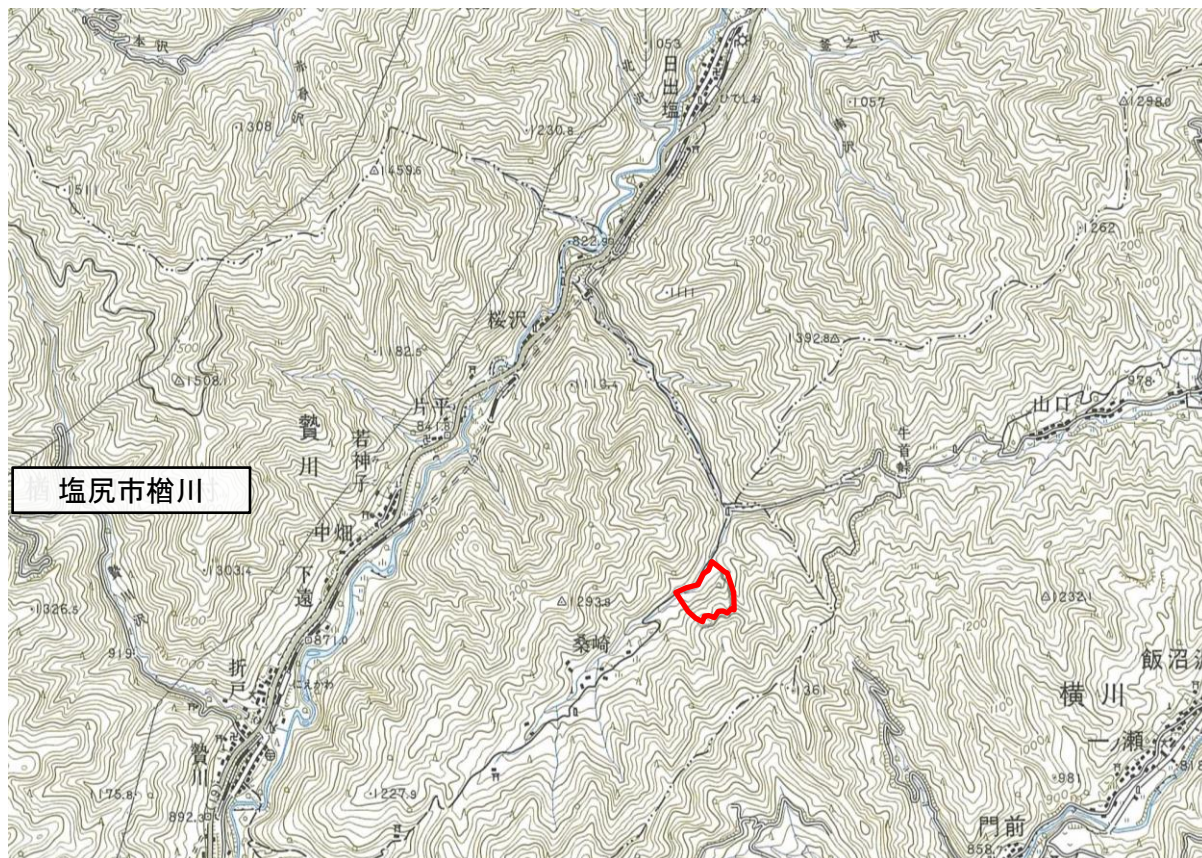


檜川県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(塩尻)を使用したものである。

<沿革>

檜川県有林は塩尻市(旧檜川村)の南にあり、標高940mから1,100mに位置し、昭和51年4月15日に国有林から購入し創設された県有林です。

林業総合センターの試験研究林として活用されています。

<現況・特色>

約10haの県有林の中を約50区画に細かく分け、様々な樹種が植栽され、幾多の試験研究が行われてきました。

檜川県有林における試験研究事例では、スギやヒノキ人工林で密度別植栽の育成状況調査・密度別保方法の検討、ウルシやキハダといった有用広葉樹の施業方法の検討といったものがあります。



ヒノキ枝打ち試験林



有用広葉樹試験林

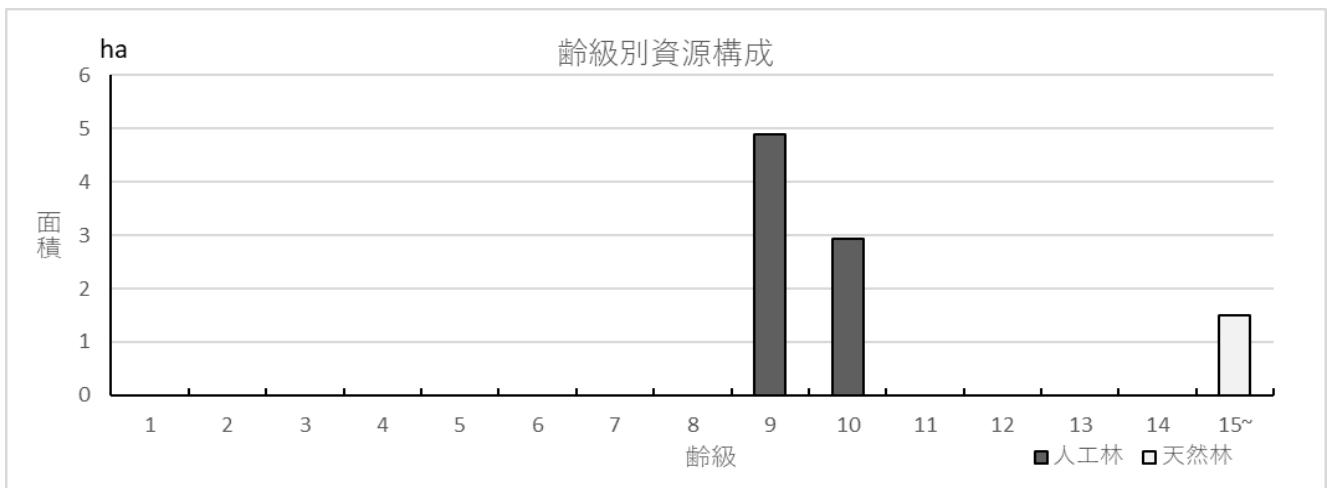
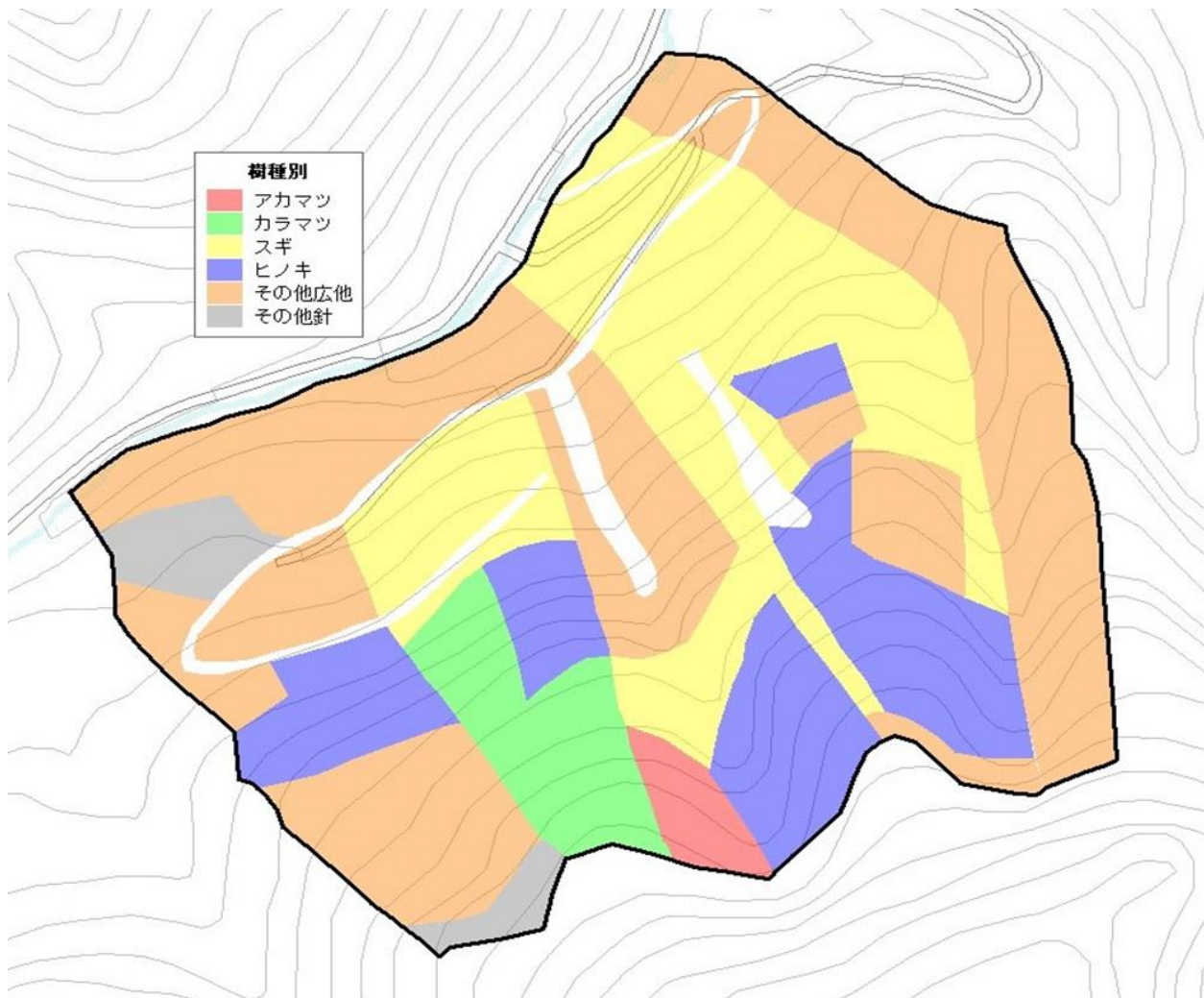
<森林整備の方向>

檜川県有林は全域を試験林・見本林として林業総合センターの管理の下に運用していきます。

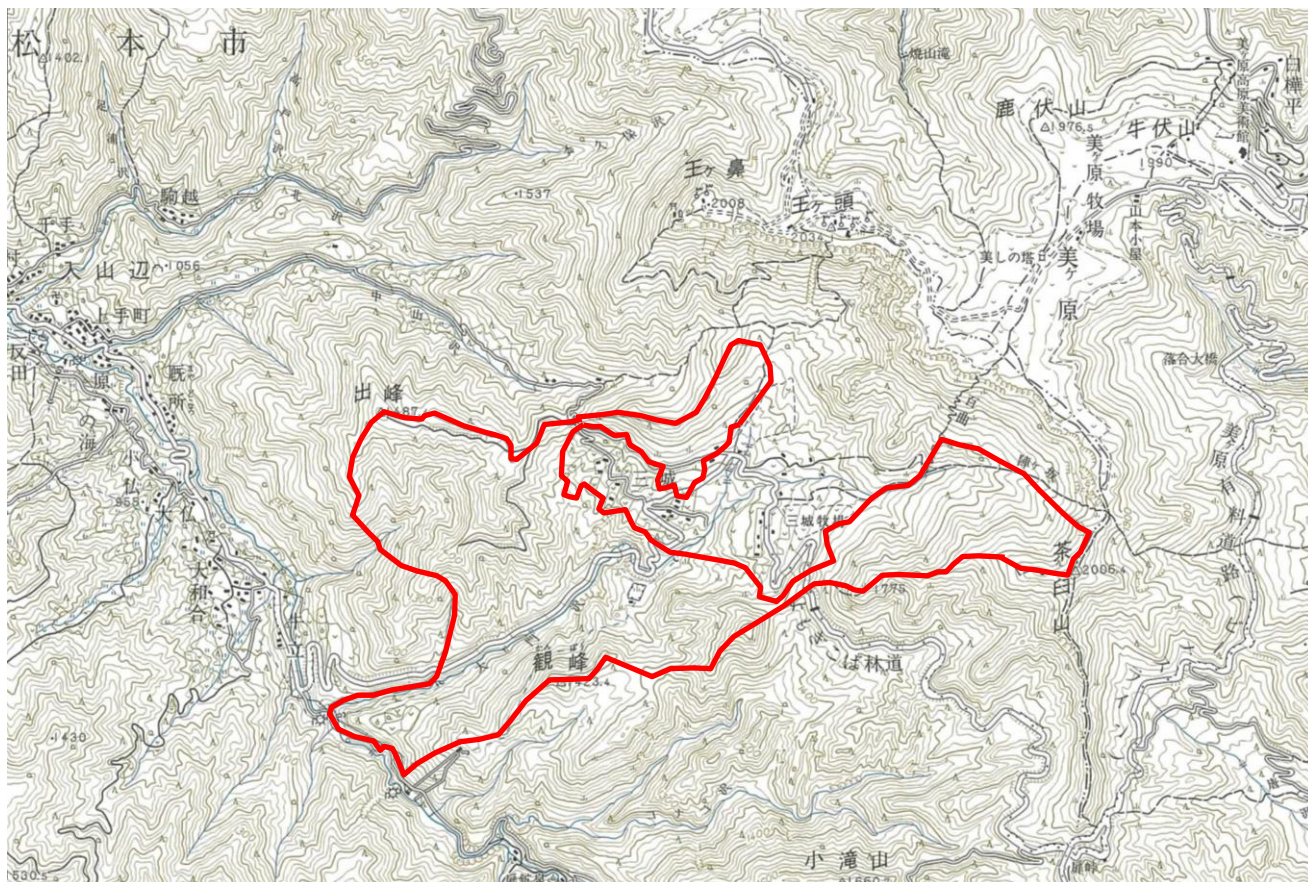
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
9.96	1.99	0.28	1.33	0.49	0.67	3.22	1.98
100%	20%	3%	13%	5%	7%	32%	20%



入山辺県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(和田)を使用したものである。

<沿革>

入山辺県有林は松本市の南東、茶臼山の西斜面標高940mから2,000mに位置しています。

明治44年7月31日に創設にされました。創設当初は760haありましたが、大正2年に牧野組合へ譲渡し、戦後の自作農特別措置法による開拓用地の提供により、現在の面積となっています。

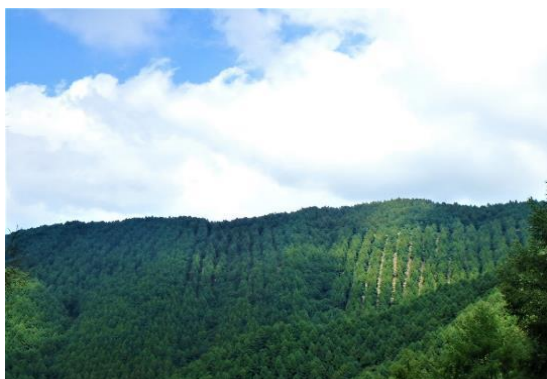
<現況・特色>

樹種別ではカラマツが約半分を占め、大門沢の溪流には、モミが生い茂っています。

林内には、林道・作業道がしっかり配置され、搬出間伐を積極的に実施してきました。

この県有林には、昭和50年に開園された「県民の森」があります。平成25年度にキャンプ場は閉鎖となりましたが、美ヶ原高原の王ヶ頭や茶臼山の登山口として利用されています。

平成27年度に学校法人成城学園と10年間の利活用協定を締結し、ネーミングライツを活用した「成城学園ふるさとの森」を県有林の一部に設定し、成城学園による森林整備、環境教育などが実施されています。



入山辺県有林遠景(列状間伐事業地)



カラマツ林



搬出間伐事業の様子

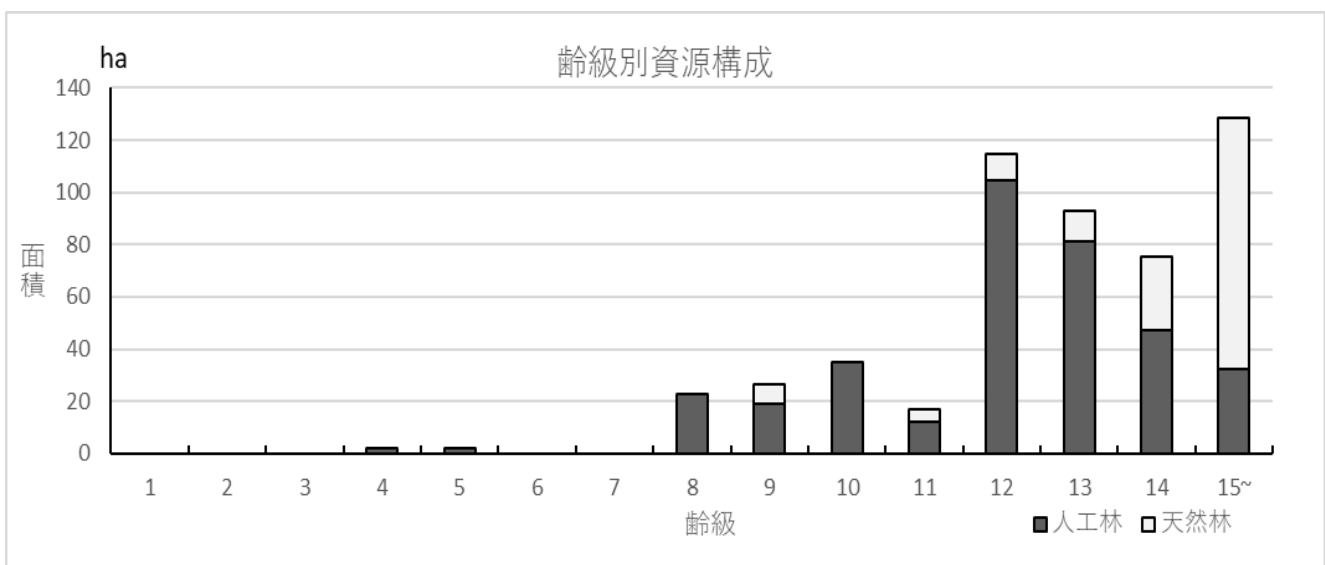
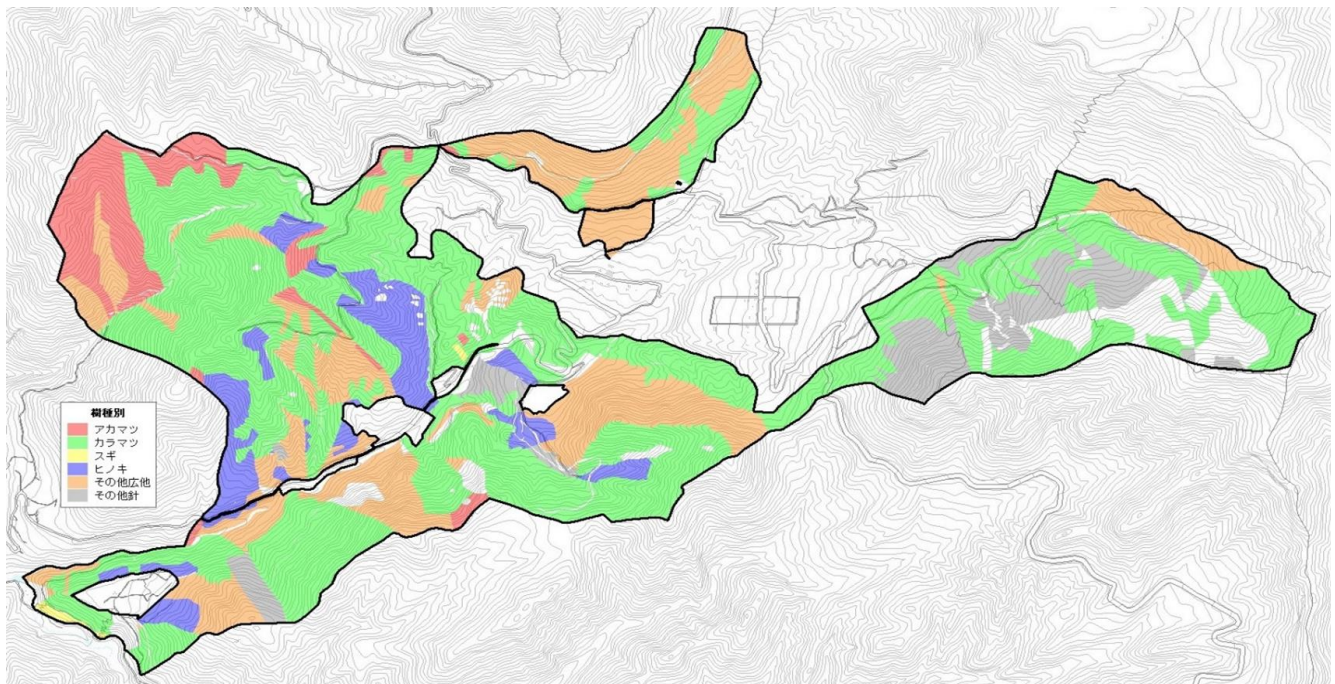
<森林整備の方向>

比較的地形が急峻であるため、路網沿線では、帯状伐採等、小面積分散型施業を実施します。
 傾斜が比較的緩やかな林分では、効率的木材生産型施業として、主伐・再造林を実施します。
 路網から距離があり、かつ、傾斜が急な林分では、奥地林施業として、上層木を適宜抜き伐り、天然更新を促進します。

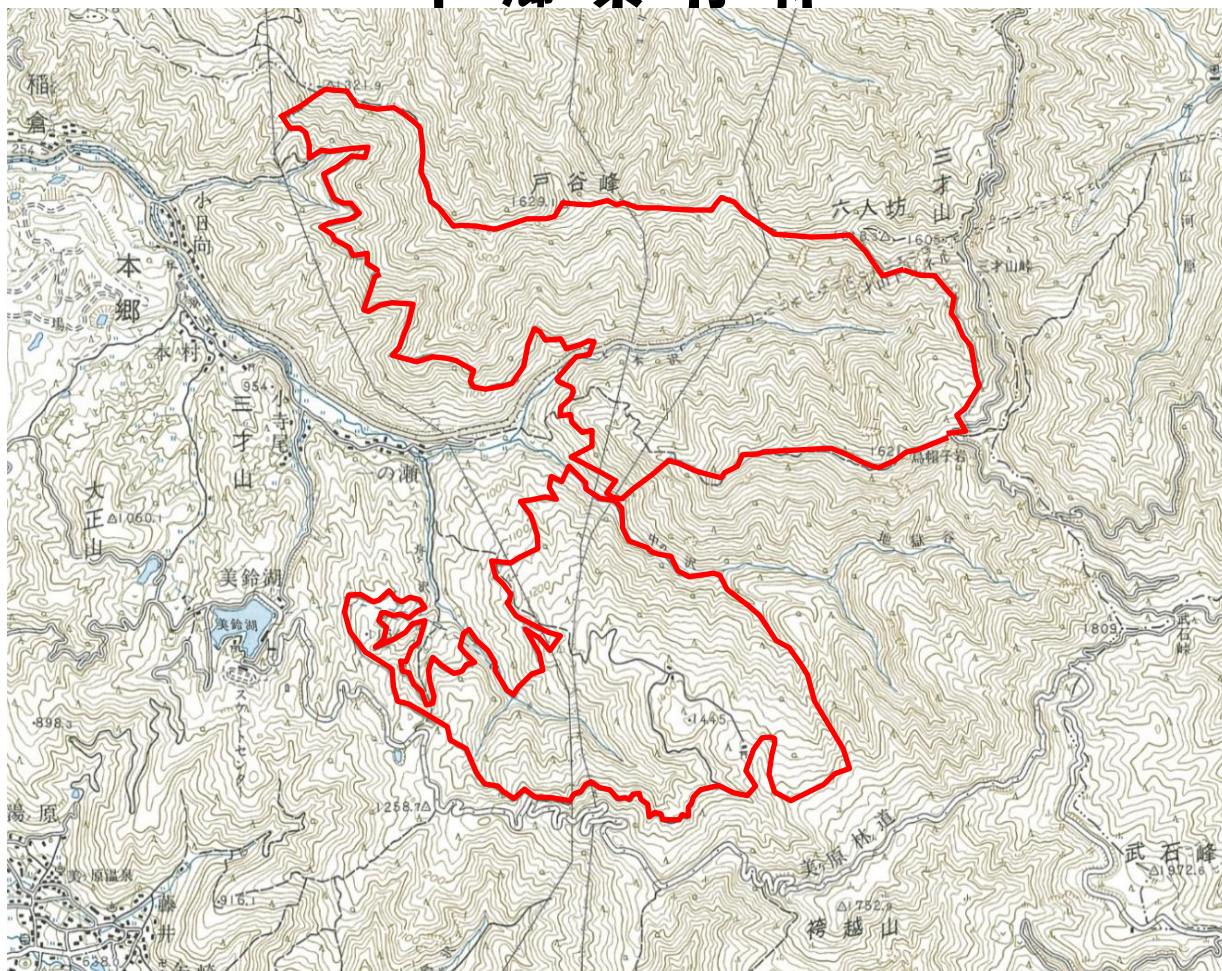
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
557.09	1.45	27.07	39.8	271.56	39.24	37.59	140.38
100%	0%	5%	7%	49%	7%	7%	25%



本郷県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(和田)を使用したものである。

<沿革>

本郷県有林は松本市の北東、標高940mから1,630mに位置し、県下で最大の面積を誇っています。

昭和40年7月6日に旧本郷村の村有林を購入して創設されました。旧本郷村の森林面積の約1/3が県有林になりました。

<現況・特色>

当県有林では、松本深志高校の創設百年を記念して作られた「深志の森」(部分林)を初めとして間伐展示林など多様な森林づくりが行われてきました。

さらに、元徳川林政史研究所長 所 三男氏の御息から寄付いただいた資金によって造成された「所記念林」が設置され、その下刈りや除伐作業は森林整備ボランティアの手によってなされました。

また、当県有林内には、「美ヶ原高原ロングトレイル」が通過しており、烏帽子岩や美ヶ原高原等への登山客に利用されています。



カラマツ林

所記念林



ストロブマツ林

<森林整備の方向>

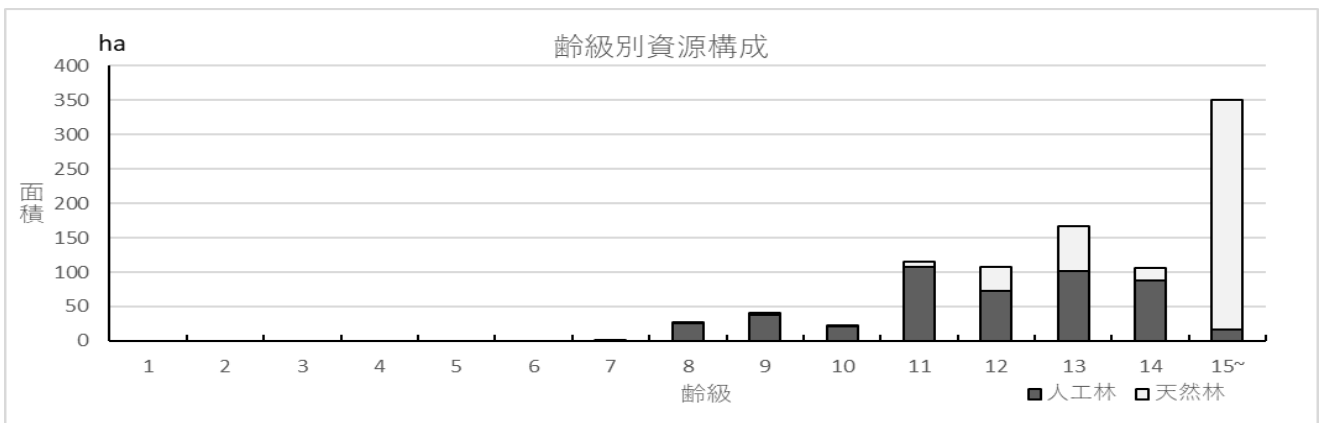
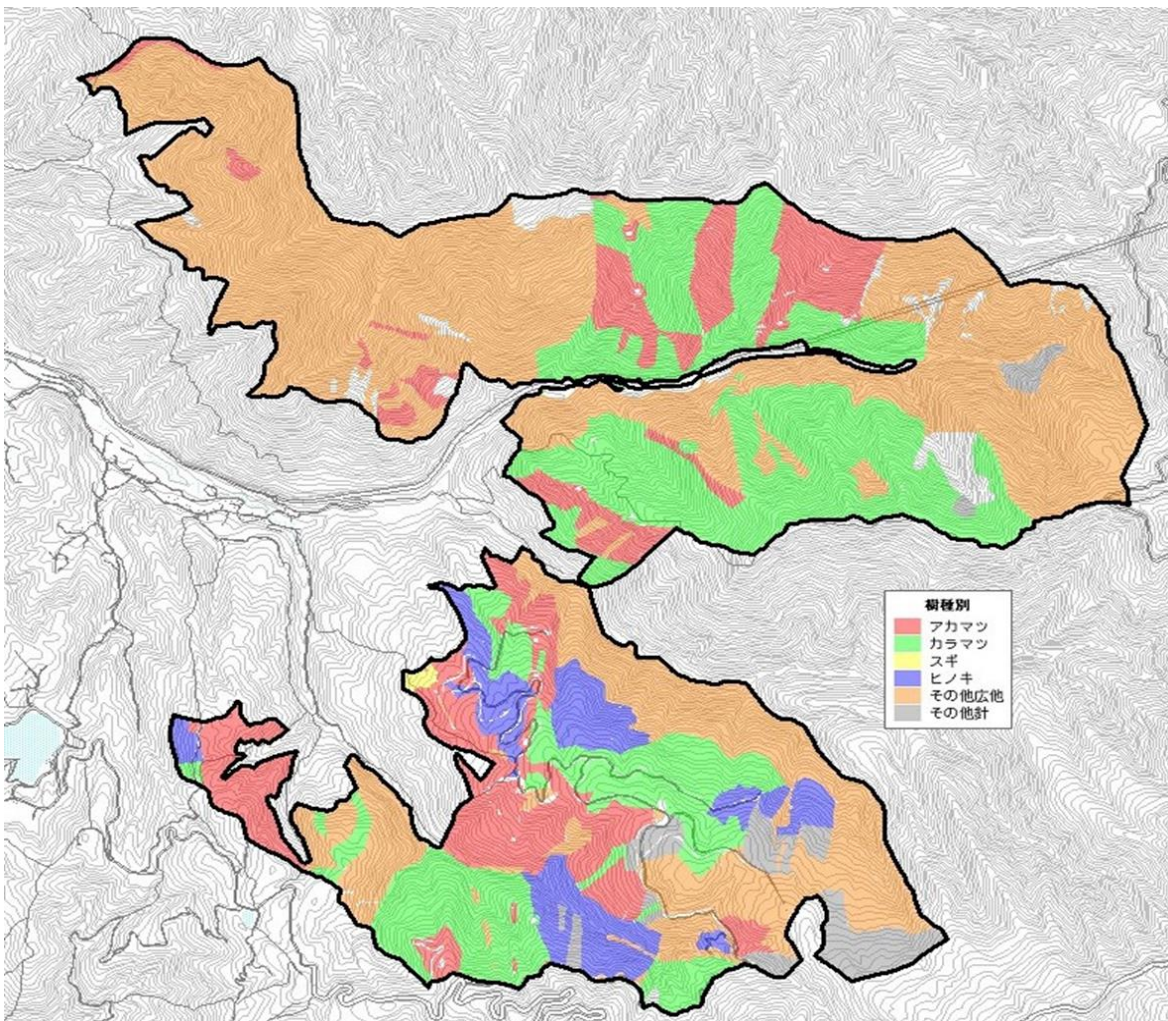
北側の団地は、地形が急峻な上、路網もないため、奥地林施業又は長伐期施業を検討し、公益的機能の増進に重点を置いた整備を行います。

南側の団地は、路網が配置されており、アカマツ・カラマツも成熟しているため、効率的木材生産型施業として、主伐・再造林を行います。路網から離れ、傾斜が急な林分は上層木を適宜抜き伐り、天然更新を促進します。

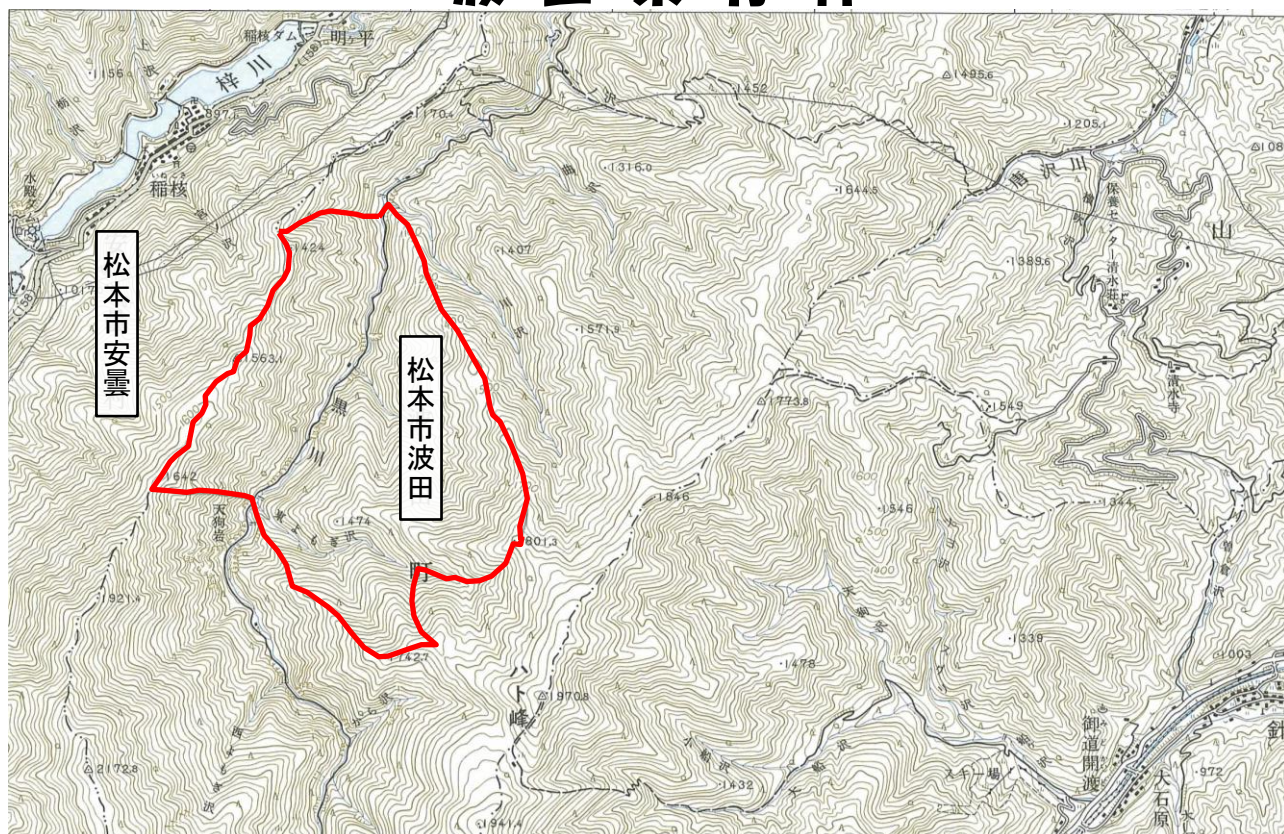
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
973.98	1.19	122.35	48.34	223.62	23.75	92.9	461.83
100%	0%	13%	5%	23%	2%	10%	47%



波田県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(塩尻)を使用したものである。

<沿革>

波田県有林は松本市波田地区、標高970mから1,800m、梓川の支流黒川沿いにあります。

当時の波田村有林を購入して、大正2年5月3日に創設されました。

黒川は昔からこの地域一帯を潤す重要な水源であり、水争いの絶えなかった川として知られています。大変急峻な地形のため道路といえば黒川沿いを走る黒川林道1本しかなく、かつて、戦後の復員労働力で斜面に築かれた林道は工事半ばで放棄されています。

<現況・特色>

樹種別ではカラマツが全体の約7割を占めており、残りはその他広葉樹やヒノキ等となっています。当県有林を縦断するように黒川林道が通過していますが、林道の両脇は地形が急峻であるため、作業道等はなく、歩道が唯一の県有林内へ入るための道となっています。



カラマツ林



ヒノキ林



波田県有林遠

<森林整備の方向>

地形が急峻であるため、路網を開設することも難しく、林道沿線でカラマツの成長の良い林分では、帯状伐採等を実施し、針広混交林化を図ります。

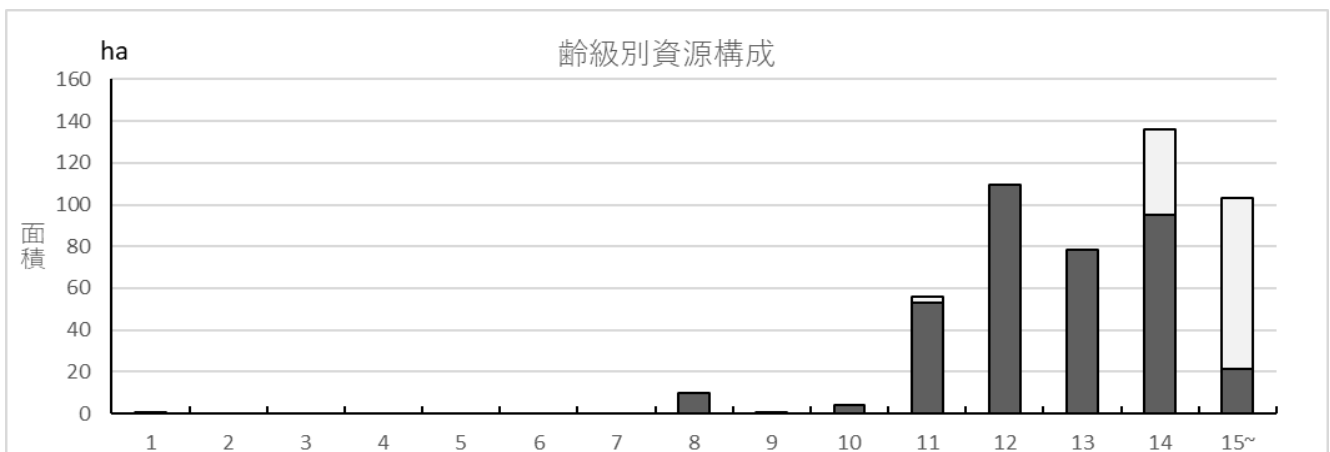
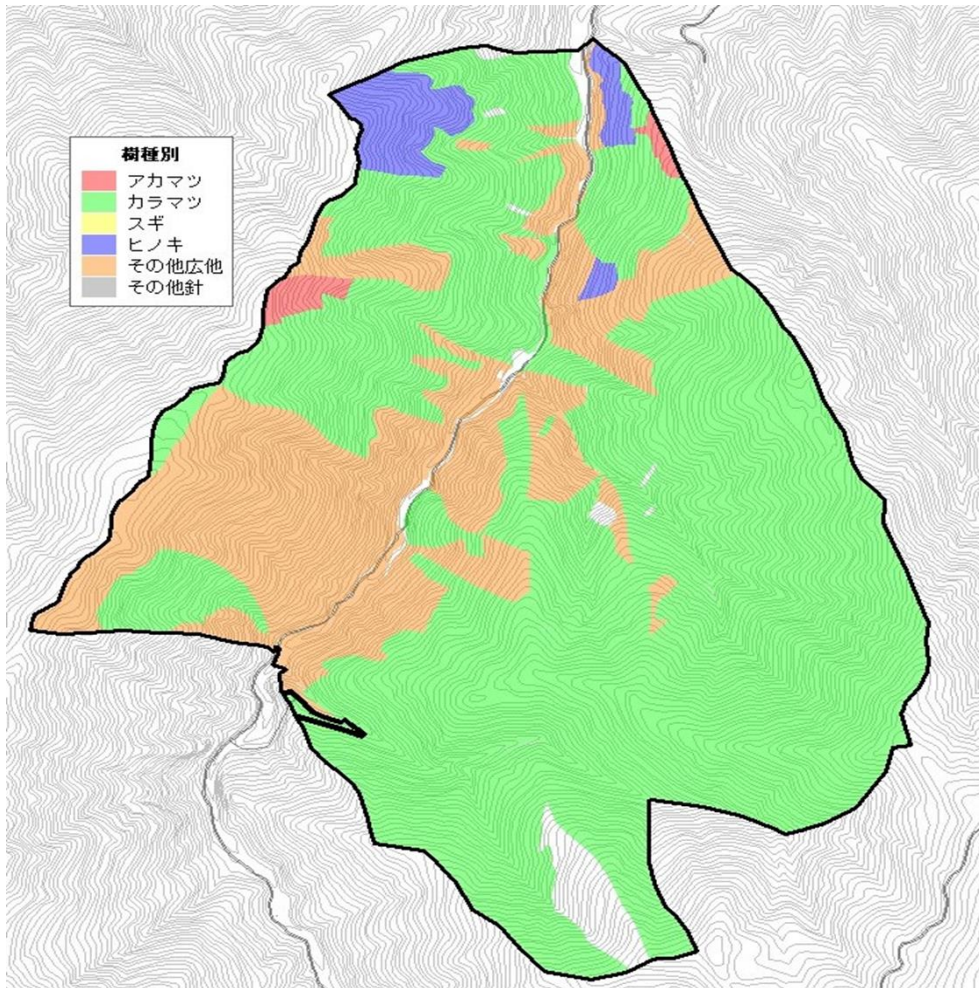
また、間伐により下層に発生した天然性広葉樹等は積極的に保残します。

路網から離れた林分は奥地林施業として、上層木を適宜抜き伐り、天然更新を促進します。

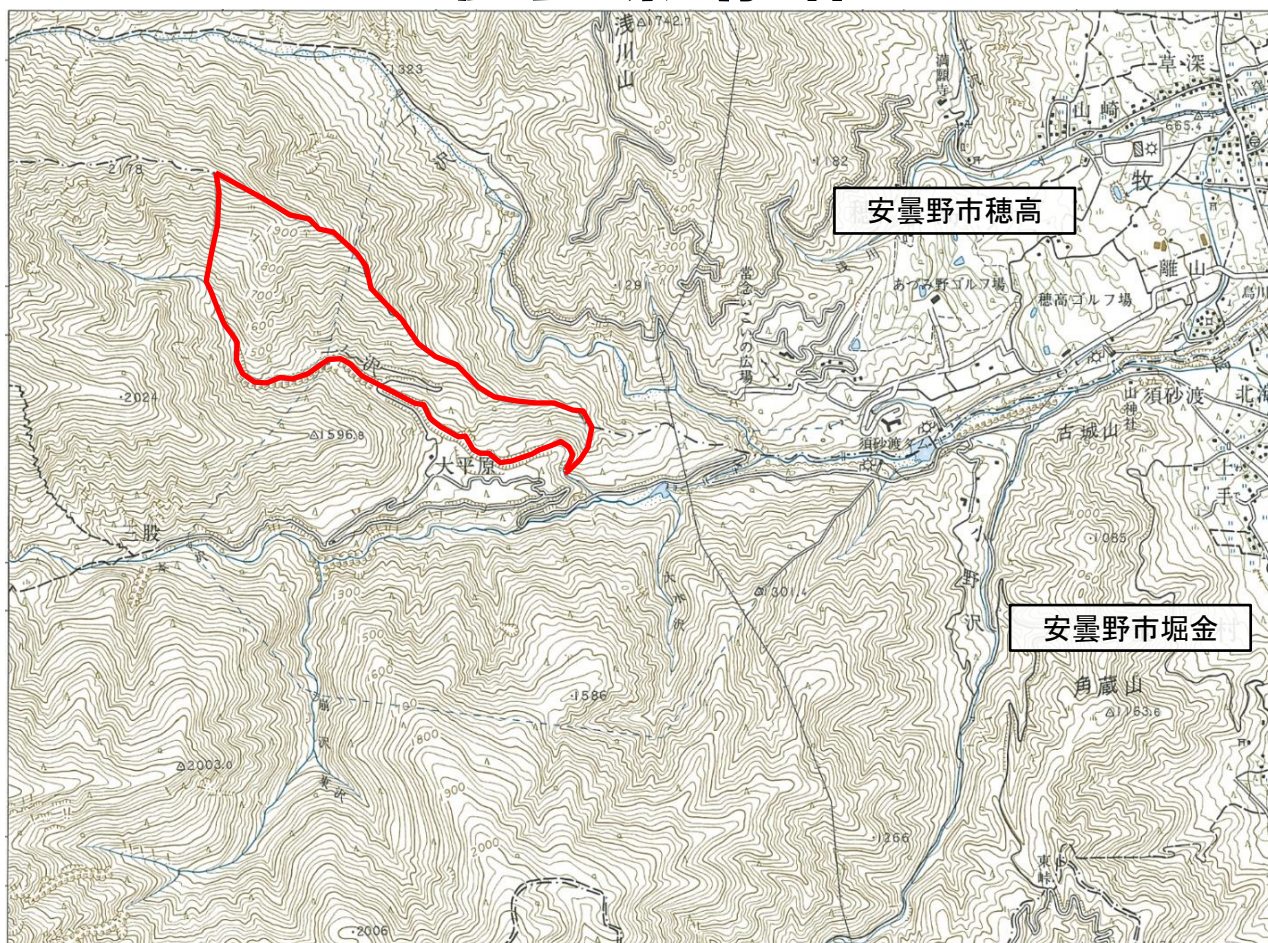
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
514.29		5.5	16.18	351.29		69.19	72.13
100%		1%	3%	68%		13%	14%



堀 金 県 有 林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(松本)を使用したものである。

<沿 革>

堀金県有林は安曇野市(旧堀金村)の北のはずれ、標高1,000mから2,030mの南側の明るい斜面にあります。

当時の堀金村有林を購入して、昭和42年3月27日に創設されました。

<現況・特色>

樹種別では、全体の約4割がカラマツとなっています。

当県有林で一番標高の高い箇所は、常念岳に続く「烏六号」三角点であり、標高は2,031mで、そこは、松本地域の県有林の中で最高地点でもあります。



カラマツ林



作業道(専用道)



更新伐事業地

＜森林整備の方向＞

当県有林は、傾斜が急であるため、林道沿いは帯状伐採により主伐を行うことで、針広混交林化を図り、林道から離れた林地については、上層木を適宜抜き伐り、天然更新を促進します。

また、間伐により下層に発生した天然性広葉樹等は積極的に保残します。

＜樹種別資源構成＞

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
170.28				68.74	0.9		100.64
100%				40%	1%		59%

